| 科目名 | | | 担当教員 | |
|---|---|---|---|---|
| 精神保健学 | | | 西尾　雅明 | |
| 科目コード | 科目単位 | スクーリング単位 | 履修方法 | 配当年次 |
| CQ3136 | 4 | 1 | R or SR (講義) | 2 年以上 |
| 生成 AI 利用レベル | | レポート　：　C | 試験　：　C | |

## 科目の概要

**■科目の内容**

心身の健康の維持増進は社会全体で取り組むべき重要な課題となっており、社会からソーシャルワーカーに期待される役割や果たすべき責任はますます大きくなっています。

精神保健の概要、現代の精神保健分野の動向と基本的考え方、家族に関連する精神保健の課題と支援、精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ、精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ、諸外国の精神保健活動の現状および対策について理解することを目的とします。

**■到達目標**

１）ライフサイクルにおける各ステージの特徴と、各ステージにおいて起こりやすい精神的問題や、代表的な精神障害を述べることができる。

２）今日社会的に問題となる精神的問題（精神障害を含む）と、それらに対する精神保健対策を説明できる。

３）我が国の精神障害者の処遇に関して、法律の変遷を中心に歴史的に説明でき、現在どのような方向へ向かっているのか具体的に解説できる。

４）世界の精神保健、特に WHO による障害概念、世界的な精神障害の動向や今後の課題を説明できる。

**■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連**

とくに「人と社会の理解力」「俯瞰的な分析力」「倫理的実践力」「開発・創造力」を身につけてほしい。

**■科目評価基準**

レポート評価 20%＋スクーリング評価 or 科目修了試験 80%

**■教科書・参考図書**

**【教科書】**

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新精神保健福祉士養成講座［専門科目］2 現代の精神保健の課題と支援　第 2 版』中央法規出版、2026 年

**（最近の教科書変更時期）**2026 年 4 月

**（スクーリング時の教科書）**参考程度に使用します。

**【参考図書】**

1）日本公衆衛生協会『我が国の精神保健福祉平成 29 年度版（精神保健福祉ハンドブック）』日本公衆衛生協会、2018 年

2）柏木昭、荒田寛、佐々木敏明編集『第４版これからの精神保健福祉ー精神保健福祉士ガイドブック』へるす出版、2009 年

## スクーリング

### ■スクーリングで学んでほしいこと

精神保健の概要、動向を踏まえて、ライフサイクル、家族、学校、職場の精神保健およびそれらの課題と支援について理解することを目的とします。

### ■講義内容

| 回数 | テーマ | 内容 |
|---|---|---|
| 1 | 精神保健の概要 | 精神保健の概念、定義、歴史、精神保健の課題と支援 |
| 2 | 精神保健の動向 | 精神科医療の現状と課題、地域精神保健福祉活動の精神保健、それらの課題と支援 |
| 3 | ライフサイクルと精神保健（1） | 乳幼児期・学童期・思春期・青年期の精神保健、それらの課題と支援 |
| 4 | ライフサイクルと精神保健（2） | 成人期・老年期の精神保健、それらの課題と支援 |
| 5 | 家族の精神保健（1） | 家族関係、暴力、出産・育児、ひきこもり、それらの課題と支援 |
| 6 | 家族の精神保健（2） | 介護、グリーフケア、それらの課題と支援 |
| 7 | 学校の精神保健 | 不登校、いじめ、教員の精神保健、それらの課題と支援 |
| 8 | 職場の精神保健 | 労働環境、産業精神保健、それらの課題と支援 |
| 9 | スクーリング試験 | |

### ■講義の進め方

教科書・配付資料を中心に講義を進めます。

### ■スクーリング　評価基準

授業への参加状況（20%）＋スクーリング試験（80%）で評価します。

### ■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10 時間）

教科書を通読してください

## レポート学習

### ■在宅学習 30 のポイント

| 回数 | テーマ | 学習内容・キーワード | 学びのポイント |
|---|---|---|---|
| 1 | 精神保健の概要(第 1 章第 1 節・第 1 章第 3 節) | 精神保健の概要、精神保健活動の三つの対象について理解する。 | 健康の定義、精神保健の定義、普遍化・拡大化する現代の精神保健課題について考察する。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 2 | ライフサイクルと精神保健(第 1 章第 1 節) | ライフサイクルと精神保健について理解する。 | ライフサイクルと発達課題、ライフサイクルの各段階における精神保健と課題について考察する。 |
| 3 | 生活習慣と精神の健康(第 1 章第 1 節・第 1 章第 5 節) | 生活習慣と精神の健康、生活と嗜癖について理解する。 | 生活習慣と精神の健康、嗜癖の基本的な考え方、日常生活における身近な嗜癖について考察する。 |
| 4 | 精神保健の動向(第 1 章第 2 節) | 現代の精神保健の動向について理解する。 | 精神科医療の現状と課題、地域精神保健福祉活動、精神疾患受療率と受療促進について考察する。 |
| 5 | 精神保健の基本的考え方(第 1 章第 4 節) | 精神の健康に関する心的態度 | 正常心理における要求モデル、危機プロセスと喪失反応のモデル、障害の受容について考察する。 |
| 6 | 家族の精神保健（1）(第 2 章第 1 節・第 5 節) | 家族関係における暴力と精神保健、家族関係の課題について理解する。 | 日本の家族の世帯構造、家族関係による課題、家族関係への影響要因、現在家族の課題、誰がどのようにして家族関係の課題にかかわるかについて考察する。 |
| 7 | 家族の精神保健（2）(第 2 章第 2 節・第 3 節) | 出産・育児をめぐる精神保健、介護をめぐる精神保健について理解する。 | 出産に関する精神保健、育児に関する精神保健、介護のストレスにかかわる問題、高齢者虐待、介護と精神保健について考察する。 |
| 8 | 家族の精神保健（3）(第 2 章第 4 節・第 6 節) | 社会的ひきこもりをめぐる精神保健、グリーフケアについて理解する。 | ひきこもりケースの精神医学的診断、ひきこもりの現状、暴力を伴うケース、グリーフケアの定義と重要性、悲嘆のプロセスとその意味、悲嘆研究に対する関心の高まり、グリーフケアが必要とされるさまざまな分野について考察する。 |
| 9 | 学校の精神保健（1）(第 3 章第 1 節・第 2 節) | 学校教育における精神保健的課題、教員の精神保健について理解する。 | 不登校、いじめ、子どもの自殺、校内暴力や非行、教職員の精神疾患による休職の状況、教員の勤務状況とストレス、教員のバーンアウトに関連する諸要因、教員のサポートを主眼とした学校支援システムについて考察する。 |
| 10 | 学校の精神保健（2）(第 3 章第 3 節・第 4 節) | 学校の精神保健に関与する専門職と関係法規、スクールソーシャルワーカーの役割について理解する。 | 学校といる場の特徴、学校における専門職種、学校と協働する関係機関、関係法規、学校現場のスクールソーシャルワーカー、スクールソーシャルワーカーの課題とこれからについて考察する。 |
| 11 | 精神保健にかかわる社会資源(第 2 章第 7 節、第 3 章第 5 節) | 家族の精神保健支援を担う機関、学校精神保健にかかわる社会資源について理解する。 | 家族に関連する多様な支援機関、家族会・当事者団体などのセルフヘルプグループ、学校に在籍する子どもにとっての社会資源、学びの環境を整える社会資源について考察する。 |
| 12 | 職場の精神保健（1）(第 4 章第 1 節・第 2 節) | 現代日本の労働環境、産業精神保健とその対策について理解する。 | 「労働安全衛生調査（実態調査）」からみた労働環境、「過労死等防止対策白書」からみた労働環境、過労自殺、労働者のメンタルヘルスに関する我が国の動向と対策、「4 つのケア」に基づくメンタルヘルス対策、「職場復帰支援 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | | の手引き」による支援の実際、ストレスチェックと職場環境改善について考察する。 |
| 13 | 職場の精神保健（2）(第 4 章第 3 節・第 4 節) | 職場のメンタルヘルスのための相談、職場内の問題を解決するための機関および関係法規について理解する。 | 職場のメンタルヘルス課題の捉え方、職場におけるメンタルヘルス相談の概要、企業内保健相談活動、メンタルヘルスに関係する職場内の問題解決のための機関、労働者のメンタルヘルスの問題を解決するための関係法規について考察する。 |
| 14 | 国際機関の精神保健活動(第９章第１節・第２節) | 世界の精神保健の実情、WHO などの国際機関の活動について理解する。 | WHO の精神保健アトラス、DALY・QALY・健康寿命と「メンタルヘルスなしに健康なし」、SDGs とその意味、WHO の精神保健の定義と主な報告・決議、世界精神保健連盟と世界精神保健デー、OECD について考察する。 |
| 15 | 諸外国の精神保健(第 9 章第 3 節) | 諸外国の精神保健医療の実情について理解する。 | 欧米における精神保健医療体制の特徴、諸外国における精神保健医療サービスについて考察する。 |
| 16 | 災害時の精神保健 (第５章第１節・第６章第 10 節) | 災害被災者の精神保健、災害時の精神保健に対する対策を理解する。 | 大規模災害時におけるメンタルヘルスの課題、災害支援の実践活動、我が国の現状、被災後に起きるストレス障害とその対策、災害被災者に対する支援と具体的な対策について考察する。 |
| 17 | 犯罪・違法行為と精神保健(第５章第２節・第９節) | 犯罪被害者等の支援、反復違法行為と精神保健を理解する。 | 犯罪被害の現状、犯罪被害と PTSD、犯罪被害者支援の現状と課題、違法行為と精神障害、違法行為の実際、医療と司法との連携、違法行為を繰り返す人への支援について考察する。 |
| 18 | 自殺対策(第５章第３節・第６章第５節) | 自殺予防、うつ病と自殺防止対策を理解する。 | 自殺の現状と課題、日本における自殺対策の経緯、自殺対策のこれから、自殺とうつ病、自殺のリスクを抱えた人への介入、個別支援とケースマネジメントについて考察する。 |
| 19 | 身体疾患の精神保健(第５章第４節) | 身体疾患に伴う精神保健を理解する。 | 身体疾患に伴う精神症状、身体疾患に伴う精神症状の実際、身体疾患に伴う精神保健の課題について考察する。 |
| 20 | 貧困問題と精神保健(第５章第５節) | 貧困問題と精神保健を理解する。 | 我が国の貧困問題の現状、貧困の基本問題、貧困問題と精神障害者、貧困問題とかかわる精神保健福祉士が問われる課題について考察する。 |
| 21 | 孤立・ひきこもりと精神保健(第 5 章第 6 節・第 6 章第９節) | 社会的孤立、社会的ひきもりに対する対策を理解する。 | 社会的孤立の多様な実態、地域に潜在化する社会的孤立、その人の文脈を大切にすること、ひきこもりに関する諸施策、これまでの課題とこれからの支援について考察する。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 22 | マイノリティと精神保健(第５章第７節・第８節) | 性的マイノリティと精神保健、多文化に接すること生じる精神保健上の問題を理解する。 | セクシュアリティの構成要素、LGBT と性別違和、精神保健上の基本的心得、多様なセクシュアリティへの支援、日本に暮らす外国人の増加、異文化ストレス、多文化社会における精神保健上の課題について考察する。 |
| 23 | 高齢者の精神保健<br>(第 5 章第 10 節・第 6 章第 7 節) | 高齢者と精神保健、認知高齢者に対する対策を理解する。 | 日本における高齢者の状況、高齢者にかかわる諸問題、認知症の疫学と予防、認知症の支援について考察する。 |
| 24 | 精神保健と予防(第６章第１節・第４節) | 精神保健における予防の考え方、ギャンブル等依存対策を理解する。 | 精神保健と予防、メンタルヘルスリテラシー、「ギャンブル依存症」と「ギャンブル等依存症」、相談・治療・回復支援の各機関と望ましい対応、ギャンブル等依存症にかかわる施策と対策の推進体制について考察する。 |
| 25 | 依存症と精神保健<br>(第６章第２節・第３節) | アルコール関連問題に対する対策、薬物依存対策を理解する。 | アルコール関連問題、アルコール依存症、アルコール関連問題の対策と現状、期待される精神保健福祉士の役割、薬物依存の実態、薬物依存症の治療と対策について考察する。 |
| 26 | 子育て・発達障害と精神保健(第 6 章第 6 節・第 8 節) | 子育て支援と暴力、虐待予防、発達障害者に対する対策を理解する。 | 我が国の母子保健施策、子育て世代包括支援センター、子育てに関する組織活動、児童虐待の予防・対策、発達障害の概要、ライフステージと生活場面における発達障害の特徴と支援、発達障害児者支援と精神保健福祉士について考察する。 |
| 27 | 地域精神保健(第 7 章第 1 節・第 2 節) | 関連法規、精神保健にかかわる人材育成を理解する。 | 地域精神保健の関連法規、精神保健にかかわる人材育成について考察する。 |
| 28 | スティグマと精神保健(第７章第３節・第８章第６節) | 精神保健における偏見・差別、セルフヘルプグループと地域精神保健を課題とした市民団体を理解する。 | 精神保健の用語、精神障害者に対する偏見形成、偏見や差別を乗越える、セルフヘルプグループとピアサポートグループ、フォーマルな社会資源とインフォーマルな社会資源について考察する。 |
| 29 | 精神保健と国・法規(第 8 章第 1 節・第２節) | 国の機関とその役割、精神保健に関係する法規を理解する。 | 法制度の変遷と役割、各機関の役割、精神衛生と地域精神保健、地域精神保健から障害者福祉へ、これからの精神保健活動に向けて、関係法規について考察する。 |
| 30 | 精神保健と連携(第８章第３節・第４節・第５節) | 多職種の役割と連携、地域精神保健にかかわる行政機関の役割および連携、学会や啓発団体を理解する。 | 精神保健福祉活動にかかわる専門職種、多職種の連携、今後の行政機関（国・都道府県・指定都市・市町村）の連携の必要性、学会や啓発団体（当事者会・職能団体・関係団体・その他の団体）について考察する。 |

**■レポート課題**

**※３・４単位めは、それぞれ 1,000 字以上 1,200 字以下で作成してください。**

| | |
|---|---|
| 1 単位め | 「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。 |

| | |
|---|---|
| ２単位め | 「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。 |
| ３単位め | 現代日本における精神保健の動向と基本的考え方を踏まえ、家族に関する精神保健の課題と支援について論述しなさい。 |
| ４単位め | 現代日本における地域精神保健の動向と基本的考え方を踏まえ、地域精神保健における多職種連携について論述しなさい。 |

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

【1・2 単位めアドバイス】

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

【3 単位めアドバイス】

教科書（とくに第２章）・参考書等をよく読み、家族に関する精神保健の課題と支援について考察してください。家族関係、暴力、虐待、出産・育児、ひきこもり、介護、グリーフケアなど、さまざまなテーマがありますので、ひとつあるいはいくつかに絞って論述してください。

【4 単位めアドバイス】

教科書（とくに第７章・第８章）・参考書等をよく読み、精神保健福祉士等の精神保健に関わる専門職による多職種の連携・協働について論述してください。

## 科目修了試験

■評価基準

出題されたテーマについて、的確に理解しているか。